

## 巻頭言

### 21世紀に向けて 積極的な研究開発を



取締役社長 松永亀三郎

欧米先進国に100年遅れて産業化への途をスタートしたわが国は、急速なスピードで発展し、今日、世界の先端をきって新しい時代に突入しようとしております。

電気事業においても二度にわたる石油危機を経験し、電力需要構造の質的变化、新エネルギー、新技術の開発、高度情報化の進展、エネルギー間競争など、従来の延長思考では対応の困難な事象が数多く生じつつあります。

このような社会変化の中で、21世紀に向けて当社が基本的使命を達成していくためには、経営諸環境の急激な変化にも的確かつ柔軟に対応できる企業体質を構築していかなければなりません。

そのためには、エネルギー高効率利用や負荷平準化に資する機器、新しい熱利用システムの開発などによる需要造成、原子力や石炭火力の高度化、燃料電池を始めとする新エネルギー技術の導入、時代に即した効率的かつ高信頼度の流通システムの実現など、長期的観点に立った重点的かつ効率的な研究開発を推進していかなければなりません。

ところで、米国の経済学者 P.F. ドラッカー教授は、その著書「イノベーションと企業家精神」の中で、「今日、アメリカでは、管理経済から企業家

経済への移行という根本的な変革が起こりつつある。」として、イノベーションを行おうとしない企業は、必然的に年をとり老衰していく。今こそ、イノベーションと企業家精神が再び求められており、体系的にイノベーションに取り組まなければならないことを強調し、七つの機会を挙げております。

イノベーションは企業を発展させるための手段であります。そのためには、その機会を見出さな

ければなりません。私はドラッカー教授が言う機会のうち、「新しい知識の獲得」を重要な機会の一つと考えたいと思います。ここで言う知識とは、必ずしも科学あるいは技術に関するものとは限りません。また、一見全く無関係な分野に関するものも含んでおります。

この新しい知識の獲得には研究開発が非常に大きな役割を担うものと考えます。すなわち、研究は企業

への知識注入の機能を果たす重要な手段であり、そのためには研究そのものを必ずしも技術的知識のみによらず、その範囲を越えると考えられる広範囲な知識をベースに行う必要があります。今後とも研究開発に与えられた使命の重要性を十分認識し、より一層積極的に展開されんことを切望してやみません。

